



武蔵野市水環境連続講座「水の学校」とは

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水をとりにくくさまざまなテーマをとりあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度からスタートし、4年目を迎えました。

連続講座レポート 第5回 まちを守る下水道～武蔵野市内地下施設見学ツアー

真冬並みの寒さとなった11月18日、水の学校第5回講座を行いました。この日は武蔵野市内の雨水管理をテーマに市が整備した2カ所の下水道施設を見学し、ワークショップを行いました。当日は雨の予報も出ており、予定していた地下の合流改善施設に入れなくなってしまうのではないかと心配しましたが、受講生のみなさんの熱い思い(?)で、なんとか地下施設見学が行える程度の天気を持ちこたえました。

市内「合流式下水道改善施設他見学」

レポーター：水の学校サポーター 木村さん

近年、地球温暖化やヒートアイランド現象などの影響で突発的な集中豪雨が多くなってきています。そのため、豪雨による市内の浸水被害が多発しています。

今回は武蔵野市内の下水道施設をマイクロバス2台で見学しました。訪れたのは下記の2カ所です。

- (1) 東町一丁目（法政高校跡地）合流式下水道改善施設
*貯留容量 8,500 m³（25mプール約26杯分）
- (2) 吉祥寺北町一丁目雨水貯留施設周辺
*貯留容量 4,500 m³（25mプール約14杯分）
*貯留された雨水は雨が止んだ後、下水道管に流す。

最初に東町一丁目（法政高校跡地）合流式下水道改善施設へ行きました。吉祥寺東町ふれあい公園地下の施設内部を模型で担当者の丁寧な説明を伺ってから①分水人孔②導水きよ③流入ゲート④フラッシュゲートを通り⑤フラッシング受水路から～貯留槽（B5F～B3F）⑥排水用ポンプ⑦放流管に至るまでを見学しました。

二番目に豪雨による市内の浸水被害発生件数の約70%を占めていた吉祥寺北町一丁目地区の浸水対策として、北町保育園の園庭地下に設置した北町雨水貯留施設へ。北町に住むサポーター内田氏のわかりやすい説明を伺いながら周辺を見学しました。

あいにくの雨中見学となったが武蔵野市の下水道事業の取り組みが理解出来ました。特に吉祥寺北町一丁目地区の浸水被害が軽減できるとのことでした。



東町一丁目の合流式下水道改善施設では、施設の構造を再現した模型で全体のイメージをつかむことができます。



見学後のワークショップの様様

レポーター：水の学校サポーター 内田さん

合流式下水道では、大雨時に汚水が未処理で溢水となって河川に放流され、水質汚濁や公衆衛生上、また、きょう雑物による不快環境が生ずるなどを問題点として知ったうえで、解決するための取り組みとしての市内にある改善施設を見学できたことは有意義でした。

下水道改善施設は市内に下水処理（水再生）センターを有しない武蔵野市が、下流域も含めて環境への配慮をしていることを示す事業として評価することができました。

見学後に行ったワークショップでは、グループに分かれて「雨対策で市民ができること」について意見を出し合いました。主要な意見として下記のような内容があがりました。

- ◆市民や近隣自治体等にもっと積極的に広報し、取り組み成果などをアピールしてほしい
- ◆雨水対策の「見える化」としての提案…雨水浸透枳、雨水タンク、道路・駐車場などの透水性舗装の普及、植栽育成、貯留施設の見える化、学校教育
- ◆市民全般への「水と緑の環境啓発」と雨水利用に関する関心の惹起

受講生の声より

- 低地対策が貯留槽で処理されている場所を見学できてよかった。また水処理施設がこんなにあるとは知りませんでした。
- 本日見た施設の存在、役割を市民に知らせることが大切。学校でも子どもたちに教える。
- 何でも役割分担することが重要で、もっと啓発活動を行い、市民が協力できるようにしたら良いと思いました。
- 市民の日々の生活で緑を大切に育てること、周辺の葉やゴミを掃除すること、大切に実行していきたいです。



水コラム no.24: 地域の未来のために！下水道の市民科学 (国土交通省下水道部)

「水の学校」連続講座第5回に国土交通省の担当者が同行し、「下水道の市民科学」の取組について紹介いただきました。

高度経済成長期には急激な人口増加や産業発展に排水処理が追いつかず、川や海の水質が悪化するなど、人々の暮らしが水辺から遠ざかるようになってしまいました。その後、下水道の整備などによって水質は改善してきました。現在では、下水道はあって当たり前のものとなっており、今後の下水道のあり方を考えていく上では、市民の皆さまの関心を一層高め、自分ゴトと捉えていただくことが課題となっています。

「下水道の市民科学」とは、よりよい地域づくりに向けて、地域の団体（自治会やNPOなど）と行政が協働し、市民にも呼びかけながら下水道に関する調査研究活動に参画する取り組みです。

例えば、「自宅で雨水ますを設置しているけど、浸水は減ったのかな?」、「雨の日と晴れの日で川の水質が違うように見えるけどなぜだろう?」など、身近な水環境への疑問をきっかけとして「自分が流した下水と川や海などの関わり」などを調べることは、市民が主体的に下水道の存在意義や役割を発見する機会となり、さらには、地域のよりよい水環境を創造する力になります。

下水道は、市民の生活を支え、水環境の創造に重要な役割を果たしています。行政とともに楽しく、できるところから「下水道の市民科学」をはじめてみませんか。

国土交通省のウェブサイトにくわしい情報やPDF版のガイドブックが掲載されています!



下水道の市民科学

検索

サポーター活動報告

●「下水道の市民科学」関係者とサポーター有志の意見交換会を開催 (水の学校サポーター 千葉さん)

連続講座第5回では、国交省「市民科学」関係者、サポーター、市職員が東町合流改善施設、北町雨水貯留施設を全員で見学し、講座終了後、関係者とサポーター有志が自由に意見を交換した。浸水対策は多くの自治体の重要課題であり、水環境課題解決には市民の理解、協力が不可欠である。自然災害から市民を守るためのいろいろな手段、アイデアがだされた。



- ・「気づき」「見える化」を促すことから下水道への理解が進むのではないかな。
- ・市民が科学にかかわると管理者にメリットがあり、市民の実践活動、社会貢献につながる。
- ・水の歴史を知ること;玉川上水、境村分水(秋本家文書)、および社会背景;自然放流では疫痢、赤痢、コレラなど感染症の問題があり、上水、下水と進んだこと、なども理解の助けになる。

武蔵野市の「水の学校」は「水の循環：上水の大切さはさることながら下水の大切さ」を学ぶ実践活動である。「水の学校」が評価されているということであり、市の担当者の努力もあり、嬉しいことである。



「水の学校サポーター」とは? : 2014~16年度の連続講座修了生で構成する、水に関する自主活動や「水の学校」の企画・運営を行うグループです。



11/12 (日)「むさしの環境フェスタ」に参加しました! 場所: 武蔵野クリーンセンター



今年の環境フェスタは、市制施行70周年、環境フェスタ10周年を記念して、むさしの青空市と隣接会場での同日開催となりました。当日は天気にも恵まれ、むさしの青空市からの来訪者もあり、環境フェスタ全体では約3000名の方にご来場いただきました。

今年も下水道課ブースでは水の学校サポーターが大活躍。水環境を守るため、「下水に油や髪の毛などを流さない」など、市民にできる具体的な行動にどんなものがあるか、クイズや実験を通して来場者の皆様にご理解いただきました。透明な排水管の模型を使った実験では、トイレトペーパーは流れるのにティッシュペーパーは残ってしまう様子が見えて、来場者からは驚きの声が聞かれました。



ブースで来場者に説明をする水の学校サポーターのみなさん